

第3回京都府肝炎対策協議会 開催概要

1 日時

平成28年3月8日（火）午後2時～3時30分

2 場所

京都平安ホテル 嵯峨の間

3 出席者（50音順・敬称略）

肝炎対策協議会委員 9名（うち、委員代理2名）

禹 満	一般社団法人京都府医師会 理事
小笠原 温美	井手町保健センター 所長、地域包括支援センター 所長
岡本 由紀子	京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課 課長補佐（安藤委員代理）
北島 則子	公益社団法人京都府看護協会 第一副会長
田中 征一郎	京都肝炎友の会 世話人
友沢 明德	一般社団法人京都府薬剤師会 理事
富田 哲也	一般社団法人京都府私立病院協会 副会長（富士原委員代理）
中嶋 俊彰	京都府感染症対策委員会肝炎部会 会長、済生会京都府病院名誉院長
丸澤 宏之	京都大学医学部附属病院消化器内科 講師

4 議題

- 京都府保健医療計画に基づく肝炎対策について
- 肝炎治療に対する医療費助成の対象拡大等について
- ウイルス性肝炎患者等の重症化予防推進事業について
- 京都府肝炎情報ガイド第2版の作成について

5 概要

- 京都府保健医療計画に基づく取組状況について事務局の報告をもとに審議され、今回の意見を踏まえ取組を進めていくこととされた。【資料1】
- インターフェロンフリー治療薬の追加に伴う肝炎治療における医療費助成の拡大について、事務局から報告された。【資料2】
- ウイルス性肝炎患者等の重症化予防推進事業の利用状況の報告、厚生労働省次年度予算の状況及び周知方法等について、事務局から報告された。【資料3】
- 京都府肝炎情報ガイドの配布状況、第2版作成について報告され、意見を踏まえ進めていくとされた。

6 主な意見

(1) 肝炎対策の取組状況について

- ・本協議会資料については、事前に委員の手元に届くようにしていただきたい。また、議事録について、詳細に、且つ、速やかに公開していただきたい。

→事前の資料配付については、今後配慮する。議事録の公開については、これまでから委員へ内容確認を行った後、公開しているところ。

- ・個別勧奨について、全市町村目標で現在17市町村ということだが、29年度までに全市町村で実施できるのか

→この間も市町村の担当者研修会等において、肝炎対策の重要性について働きかけをしているところ。府でも引き続き目標達成に向け、働きかけを進めていく。

- ・実施市町村と未実施市町村は。

→健康増進事業として平成26年度に個別勧奨をしていない市町村は、京都市、福知山市、亀岡市、長岡京市、向日市、南丹市、大山崎町、笠置町、南山城村と把握している。

- ・僻地等での肝炎ウイルス検査出張検診の実施予定はあるか。

→各市町村の状況及び要望状況を鑑み、検討するものとする。

- ・妊婦健診における肝炎ウイルス検査は無料で実施できるのか

→妊婦健診の一環として実施しており、肝炎ウイルス検査として個別に費用徴収するものではない。

- ・医療関係者以外への研修の実施状況は。

→市町村、保健所等の行政担当者を対象に実施している。

- ・研修会には患者会も参加出来るか。

→研修の内容によって、関わり方を検討する。

- ・住所地が京都市内の者は府委託医療機関における無料肝炎ウイルス検査を受診することができない。患者会からも市に要望等行った経緯はあるが、府としての対策は講じないのか。

→無料肝炎ウイルス検査に係る事業については、保健所設置市に権限があるため、制度的な事情も御理解いただきたい。また、京都市内では、市保健センターにおける無料肝炎ウイルス検査を実施している。

- ・肝炎対策の推進のために、府としては、市を巻き込んでいかなければならないと考える。

→府感染症対策委員会の中で検討していきたいと考える。

- ・肝炎が進行しても、かかりつけ医から、専門医療機関を紹介してもらえないことがある。かかりつけ医のレベルアップも必要。

→具体的な事例があれば対応を検討する。

- ・京都府の肝炎対策に係るホームページについて、最近ではパソコンを使わず、スマートフォンで確認される方が多い。スマートフォンには対応しているか。

→スマートフォン用のページも対応している。

- ・肝炎ウイルス検査等に関する府民認知度の調査を行ったことはあるか。

→調査実績はない。

(2) 肝炎治療に対する医療費助成の対象拡大等について

- ・ハーボニー配合錠（レジパスビル／ソホスブビル配合錠：インターフェロンフリー治療

薬)については非常に高額であり、大手ではない薬局では調剤について、苦慮している。ハーボニー配合錠は、1瓶単位(28日分)での販売となっているが、医師が副作用等を懸念して7日分処方するケースがあり、薬局は調剤を拒否できない。途中で患者が来なくなると、使用期限が45日しかないため廃棄せざるを得ない。薬局ではこのような問題を抱えていることも認識していただきたい。

- ・京大病院での事例としては、原則は1瓶単位で処方するよう医師向け研修等では伝えており、京大病院周辺薬局における研修等も実施。
- ・患者へは、インターフェロンフリー治療薬については特殊な医薬品であり、地域の薬局では取り扱いがないおそれがあるため、出来る限り京大病院周辺薬局に行くよう伝えている。

(3) ウイルス性肝炎患者等の重症化予防推進事業について
委員からの意見は特になし。

(4) 肝炎情報ガイド第2版の作成について

- ・肝炎友の会としても当ガイドの作成については、府と一緒に取り組んできた。挿絵イラストについては、肝炎友の会から府へ提供したもの。他自治体の患者会からも非常に評判が良く、今後とも更なる普及に努めていただきたい。

(5) その他

- ・患者の年齢・所得等によっては、健康保険の高額療養費制度を利用されることをもって、肝炎医療費助成制度を利用する必要がない場合があることや、医療費助成制度における診断書記載項目にあるような患者情報の電子レセプトへの記載によるデータ構築について、医師会として医療機関あて周知を図っているのを、報告する。
 - ・啓発活動については、予算がつきにくいことは理解しているが、府民への肝炎ウイルス検査の受検等に係る啓発活動は重要と考える。
 - ・現肝炎対策に係る計画の策定時には、きちんと実態把握等を行っているか。次期肝炎対策に係る計画の策定にあたっては課題を抽出し、策定することが重要と考える。
- 計画策定にあたっては、府感染症対策委員会においても協議していきたいと考える。

7 閉会